

須坂市次世代育成支援行動計画策定に伴う ニーズ調査等業務

(4) 須坂市の現状の問題点と課題の整理（ニーズ調査等からの課題抽出）

平成21年9月

◆須坂市の現状の問題点と課題の整理（ニーズ調査等からの課題抽出）

1 出生数と年少人口

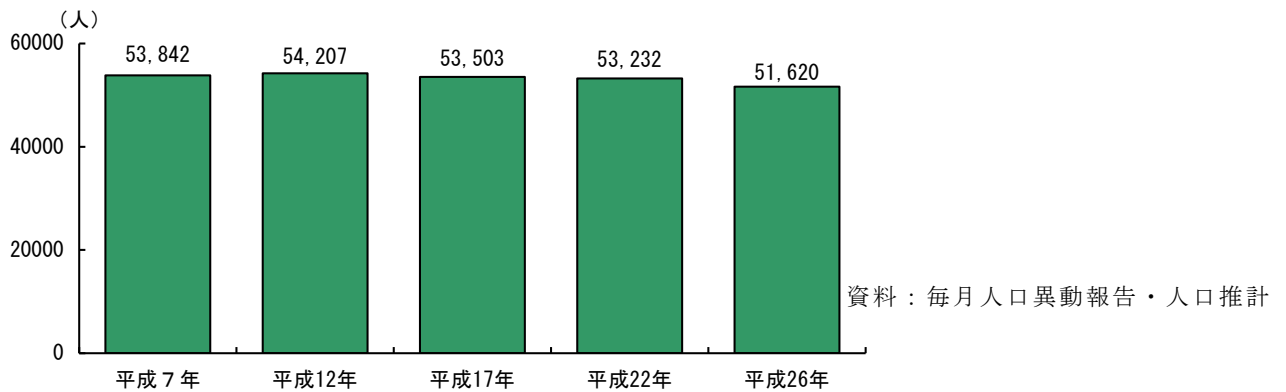
須坂市の人口の推移は、平成12年に54,000人台であったのが、平成17年には53,000人台になっており、現在の推計では平成26年には51,000人台と推計されています。

須坂市の結婚件数の推移がほぼ横ばいなのに対し、出生数の推移は、平成17年から減少が目立ってきています。

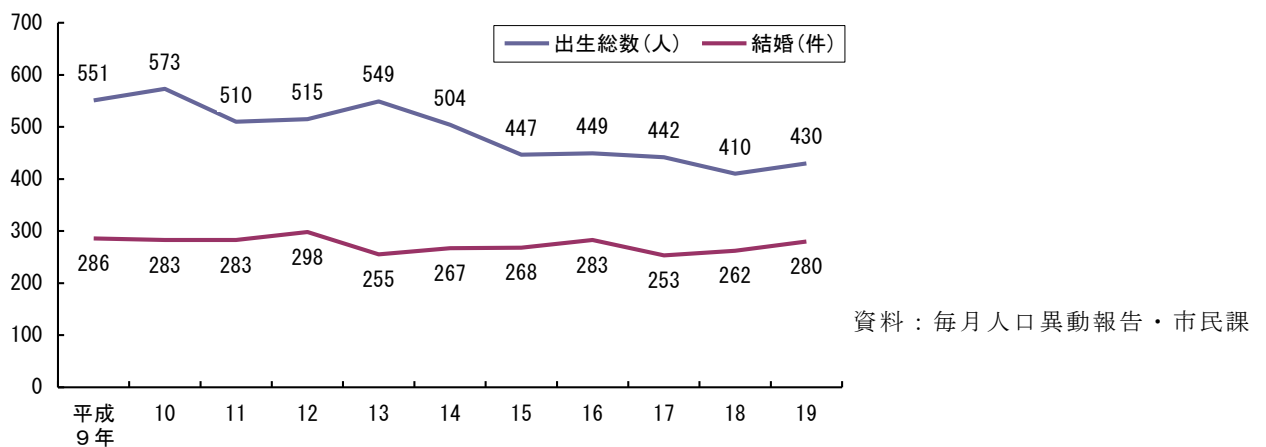
須坂市の合計特殊出生率は平成14年度では国・県より高い水準でしたが、平成15年度以降では県よりも低くなっています。

また現時点での人口推計では、年少人口は平成26年に14%を下回ると予測されます。

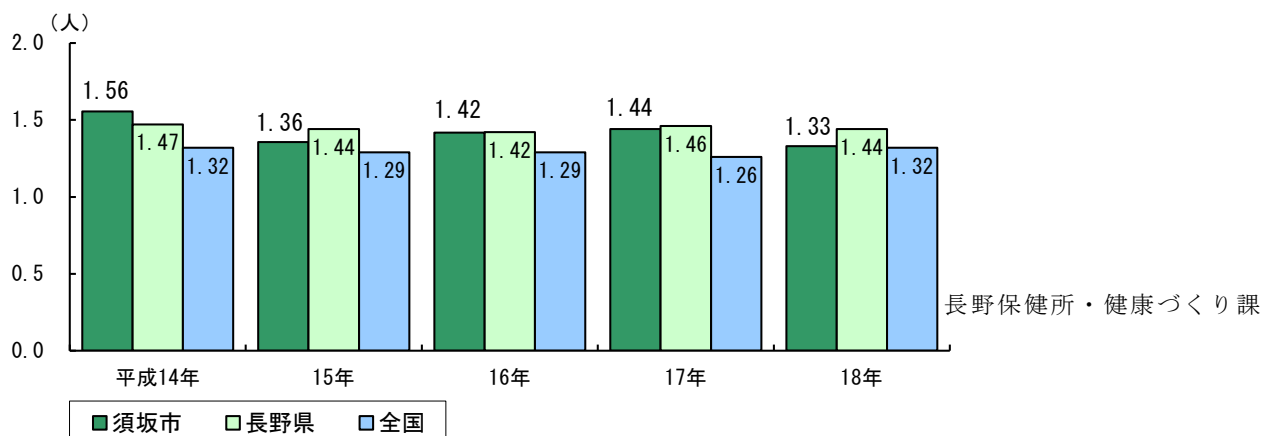
■人口の推移



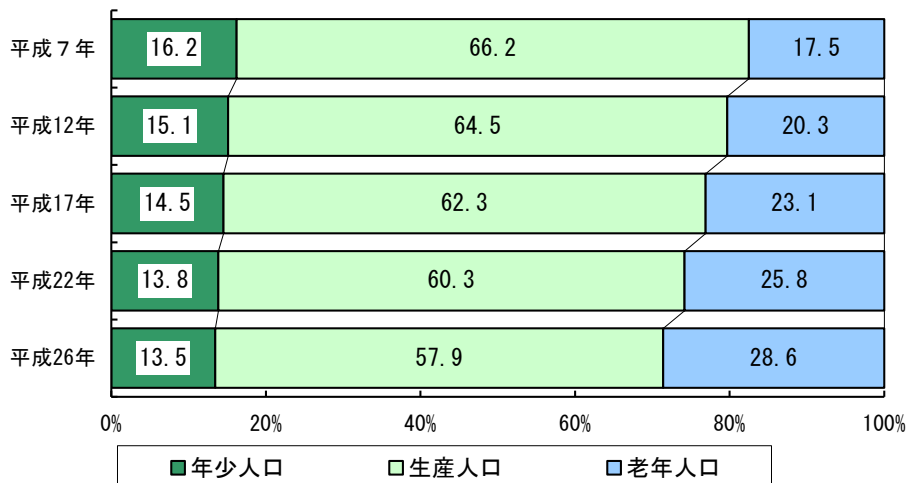
■出生数と結婚件数



■合計特殊出生率



■年齢3区分別人口の推移



資料：毎月人口異動報告・人口推計

2 保育所の定員数

保育所の定員とその充足率をみると、児童数の減少の影響もありますが、いずれも100%を下回っており、保育所の不足はみられていません。幼稚園の幼児数の推移をみても、ここ数年は顕著な減少を示しています。

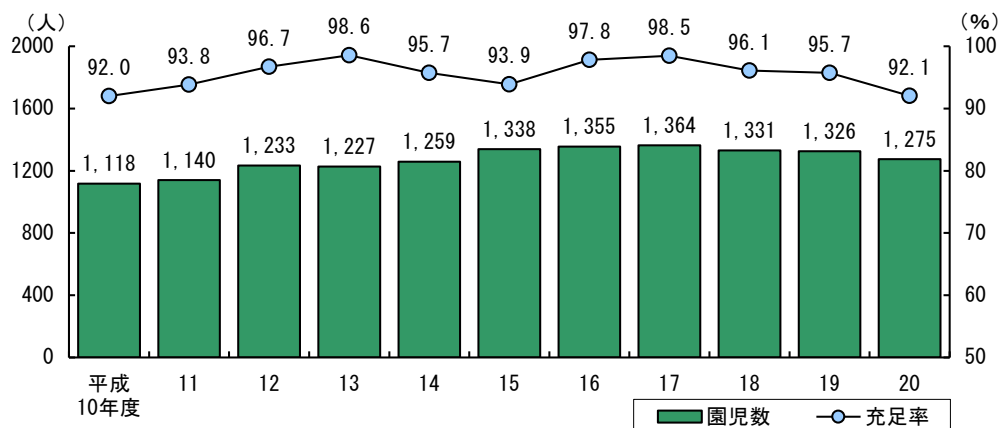
■保育所の状況

単位：人

	保育園数	職員数	定員	園児数		
				総数	3歳未満	3歳以上
平成10年度	17	164	1,215	1,118	194	924
11	17	171	1,215	1,140	231	909
12	16	176	1,275	1,233	227	1,006
13	16	188	1,245	1,227	258	969
14	16	192	1,315	1,259	227	1,032
15	17	213	1,425	1,338	297	1,041
16	17	204	1,385	1,355	315	1,040
17	17	237	1,385	1,364	295	1,069
18	17	233	1,385	1,331	260	1,071
19	17	238	1,385	1,326	277	1,049
20	17	205	1,385	1,275	287	988

資料：子ども課

■保育所の定員充足率と園児数の推移

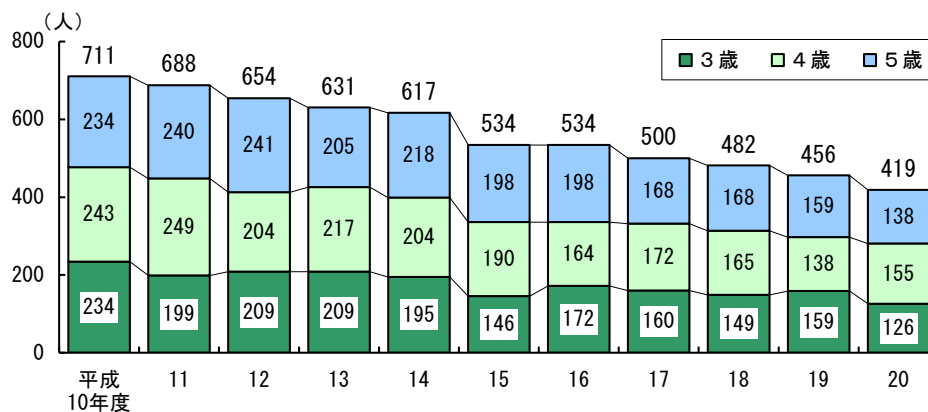


■ 幼稚園学級数・幼児数

	園数	学級数	幼児数 (人)			
			総数	3歳	4歳	5歳
平成10年度	6	35	711	234	243	234
11	6	31	688	199	249	240
12	6	31	654	209	204	241
13	6	31	631	209	217	205
14	6	30	617	195	204	218
15	6	29	534	146	190	198
16	6	27	534	172	164	198
17	6	27	500	160	172	168
18	6	27	482	149	165	168
19	6	25	456	159	138	159
20	6	25	419	126	155	138

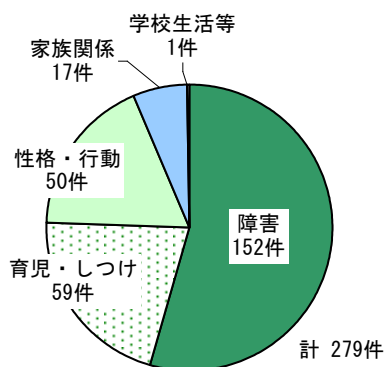
資料：学校基本調査

■ 幼児数の推移



3 家庭児童相談

平成19年度の家庭児童相談の相談内容を見ると、年間に279件の相談がありました。最も多かったのが「障害について」が152件、次いで「育児・しつけについて」59件、「性格・行動について」50件となっています。



資料：社会福祉統計のあらまし

4 小学校児童数の推移と学童保育等の利用状況

小学校児童数の推移をみると平成11年からは減少傾向を示しており、平成20年では3,100人台となっています。

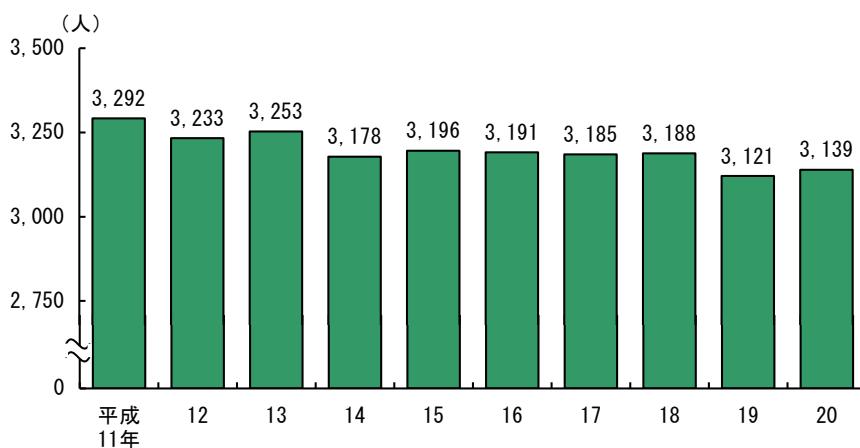
学童保育の利用状況をみると、児童センター・児童クラブともに、平成19年まで延べ利用者数は増加していますが、平成20年の登録数・延べ利用数は減少しています。

「遊びの広場」の利用状況をみると、児童数が減少しているにもかかわらず、平成19年までは利用が増えていましたが、平成20年は減少に転じています。

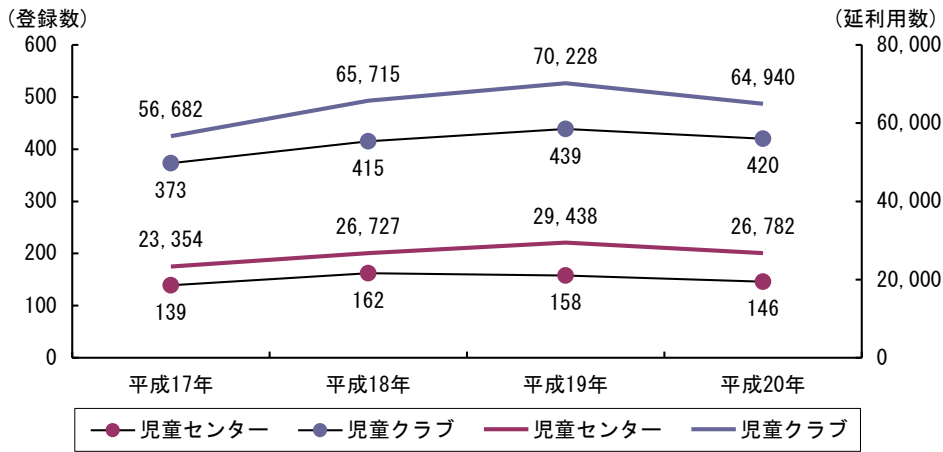
■ 小学校児童数の推移

	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
須坂小学校	286	281	297	290	289	282	284	267	250	232
小山小学校	368	356	375	388	398	414	425	453	457	473
森上小学校	340	340	358	335	337	356	365	378	377	387
日滝小学校	321	329	299	280	285	284	286	284	291	297
豊洲小学校	292	261	274	270	292	296	294	301	285	285
日野小学校	381	366	350	351	347	333	337	345	321	335
井上小学校	255	251	244	250	239	239	243	250	266	273
高甫小学校	228	215	219	194	192	187	194	200	198	210
旭ヶ丘小学校	267	295	312	315	312	309	290	265	247	230
仁礼小学校	339	337	333	327	339	328	313	312	307	303
豊丘小学校	215	202	192	178	166	163	154	133	122	114
計	3,292	3,233	3,253	3,178	3,196	3,191	3,185	3,188	3,121	3,139

■ 小学校児童数の推移



■学童保育の利用状況

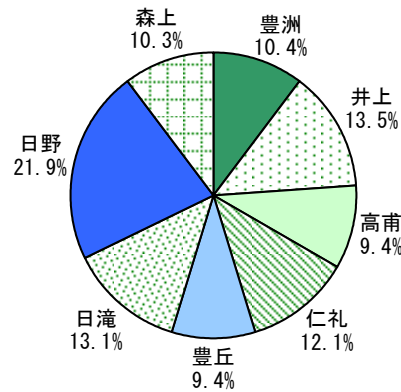
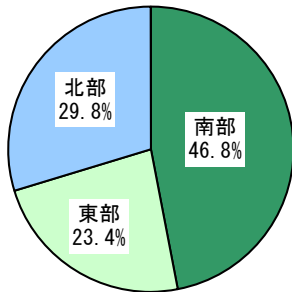


資料：学校教育課

■地域別の利用割合（平成20年）

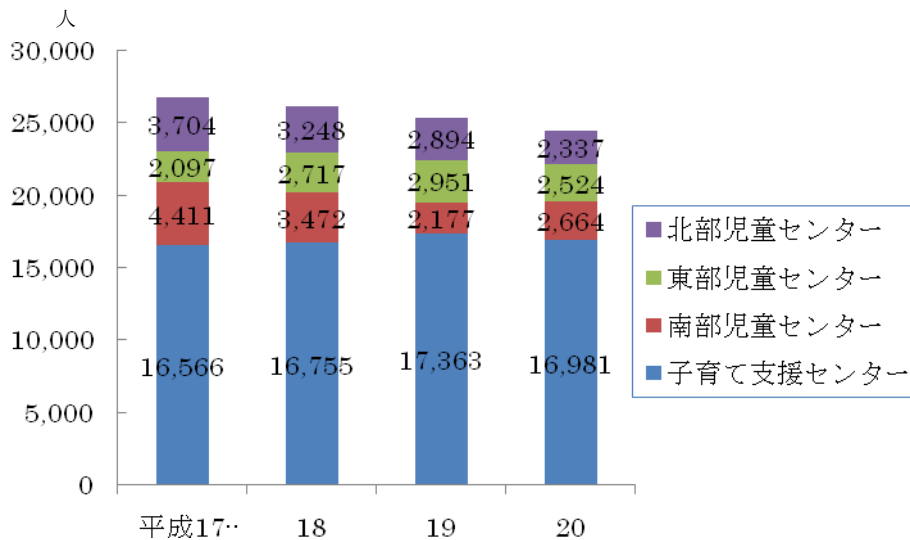
◎児童センター（26,782人）

◎児童クラブ（64,940人）



資料：学校教育課

■「遊びの広場」の利用状況



資料：学校教育課

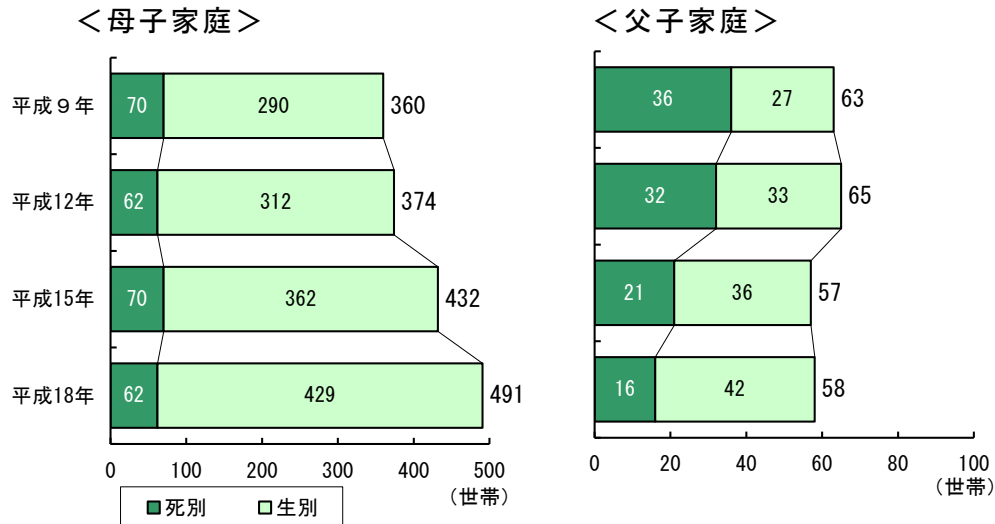
5 母子家庭・父子家庭の推移と相談状況

母子家庭と父子家庭の推移をみると、年々、母子家庭の世帯数が増えており、その内「生別」の割合も増加しています。

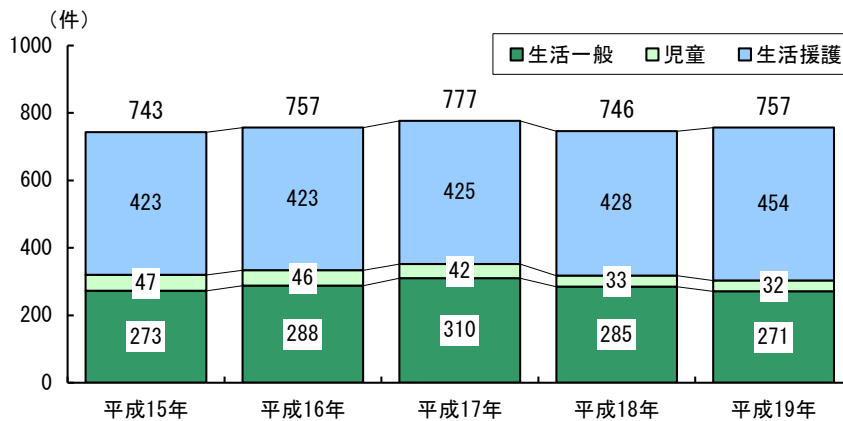
また、父子家庭の世帯数はあまり増えていないのに対して、母子家庭はかなり増加しています。

一方、母子・父子相談の推移をみると、各年ともに件数的には750件で推移していますが、「生活援護」の相談件数は、若干増加傾向を示しています。

■ 母子家庭・父子家庭の推移



■ 母子・父子相談の推移



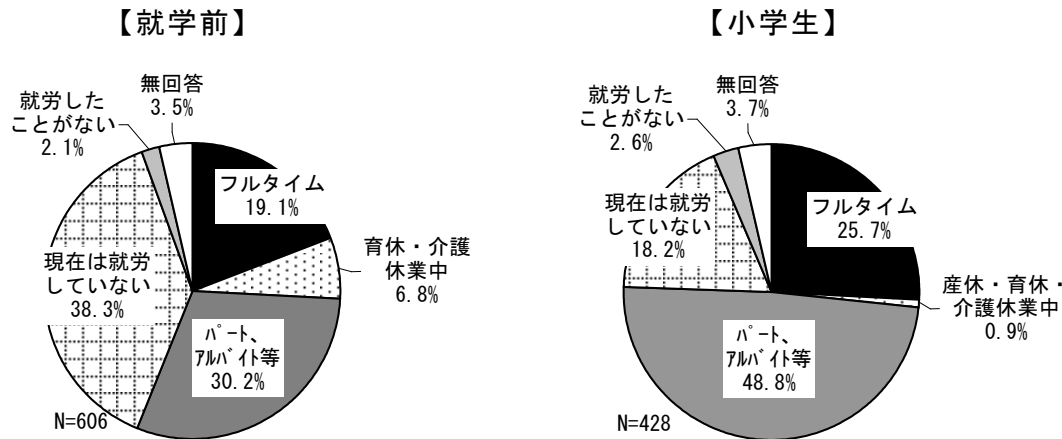
資料：社会福祉統計のあらまし

6 アンケートからの課題

(1) アンケート集計結果

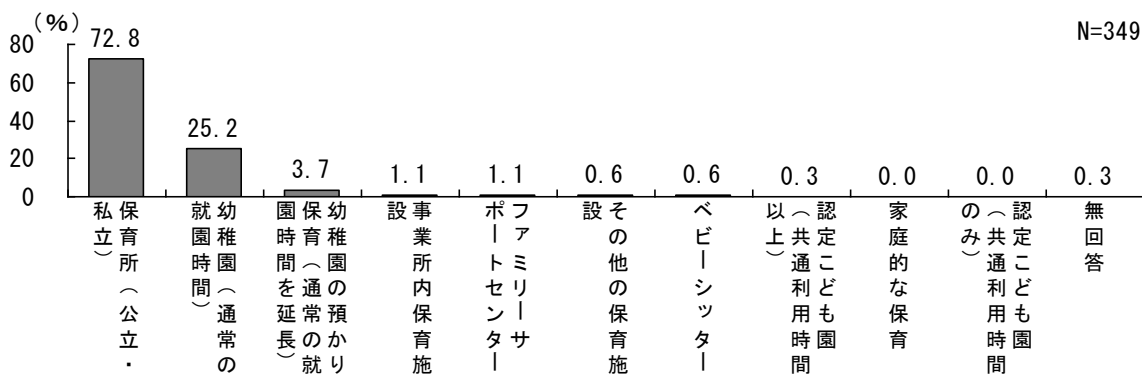
① 母親の就労状況

母親の就労状況は、「フルタイム」と「パート・アルバイト等」をあわせた『働いている』が就学前は49.3%、小学生は74.5%となっています。



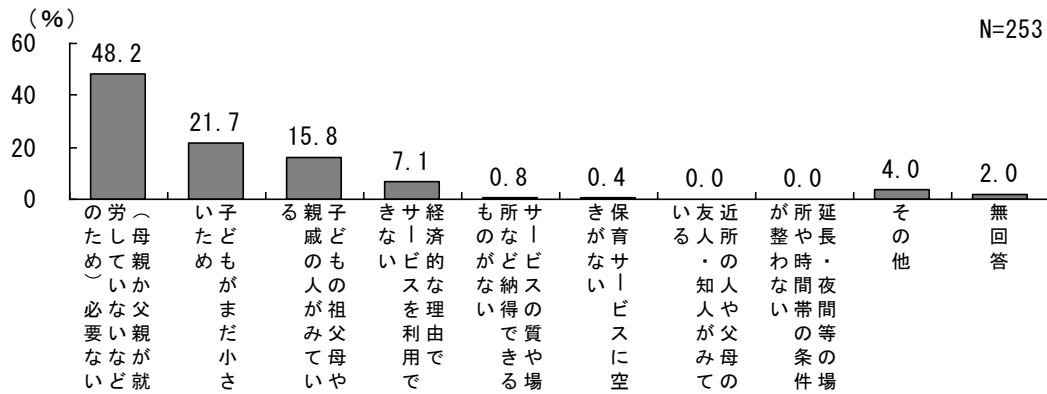
② 利用している子育て支援サービス

就学前児童に利用している子育て支援サービスを聞いたところ、「保育所」72.8%、「幼稚園」25.2%となっており、あわせると98.0%が保育所や幼稚園に通っています。



③ 子育て支援サービスを利用していない理由

就学前児童に子育て支援サービスを利用していない理由を聞いたところ、「(母親か父親が就労していないなどのため) 必要ない」が48.2%で最も多く、以下「子どもがまだ小さいため」21.7%、「子どもの祖父母や親戚の人がみている」15.8%などと続いています。

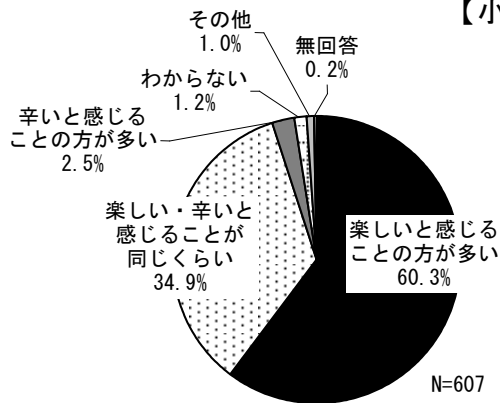


④子育てを楽しんでいるか、辛いと感じるか

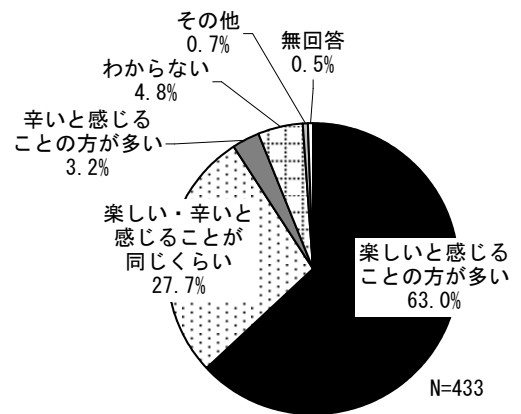
子育てを楽しんでいるか、辛いと感じるか聞いたところ、「楽しいと感じることの方が多い」は就学前で60.3%、小学生で63.0%となっています。

また、「楽しい・辛いと感じることが同じくらい」は就学前が34.9%で、小学生の27.7%に比べ、やや多くなっています。

【就学前】



【小学生】

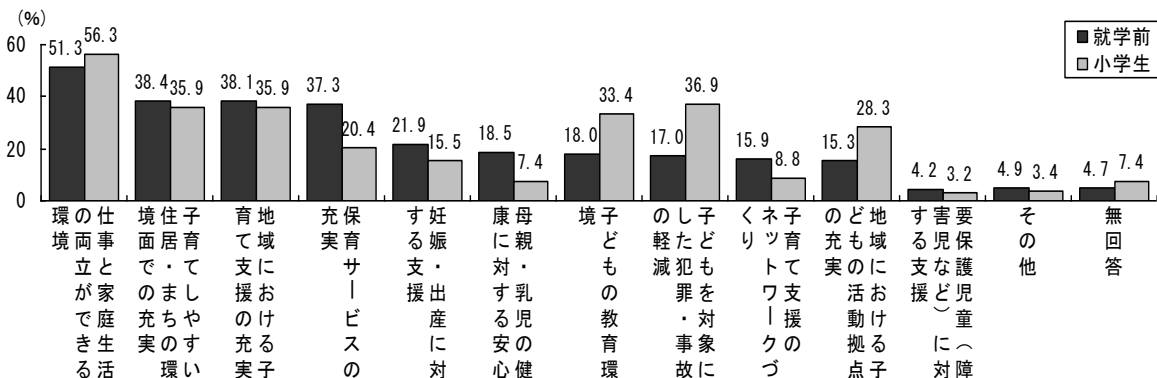


⑤子育て支援のために効果が高いと考える施策

子育て支援のために効果が高いと考える施策は、「仕事と家庭生活の両立ができる環境」が最も多くなっており、就学前で51.3%、小学生で56.3%となっています。

次いで、就学前では「子育てしやすい住居・まちの環境面での充実」38.4%、「地域における子育て支援の充実」38.1%、「保育サービスの充実」37.3%などが多くなっています。

小学生では、「子どもを対象にした犯罪・事故の軽減」36.9%、「子育てしやすい住居・まちの環境面での充実」35.9%、「地域における子育て支援の充実」35.9%、「子どもの教育環境」33.4%などが多くなっています。

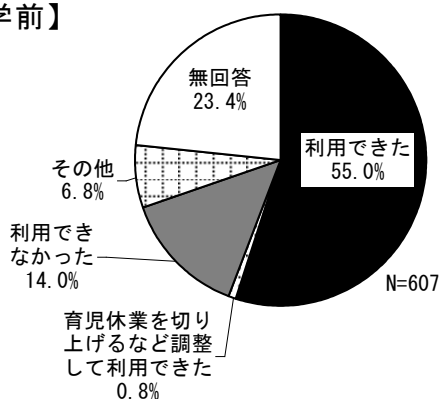


⑥希望した時期に希望した保育サービスを利用できたか

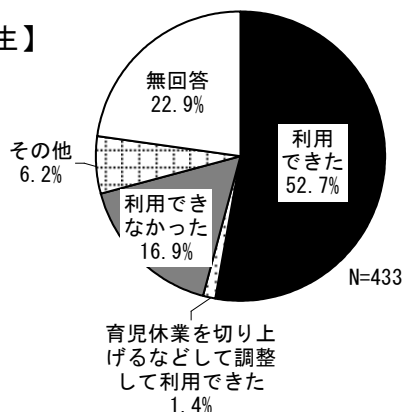
希望した時期に希望した保育サービスを利用できたか聞いたところ、「利用できた」は就学前で55.0%、小学生で52.7%となっています。

また、「利用できなかった」は就学前で14.0%、小学生で16.9%となっています。

【就学前】



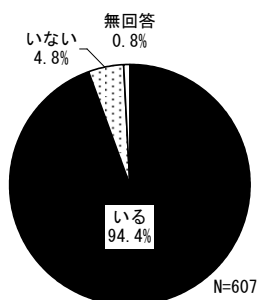
【小学生】



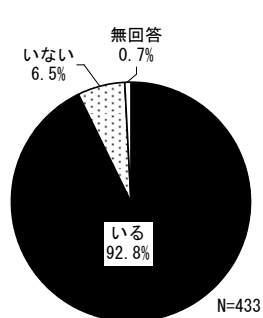
⑦相談相手について

子育てについて気軽に相談できる人がいるか聞いたところ、「いる」が就学前が94.4%、小学生は92.8%となっています。また、相談相手については、就学前と小学生ともに、「親や家族」、「友人」といった身近な人の割合が高くなっています。

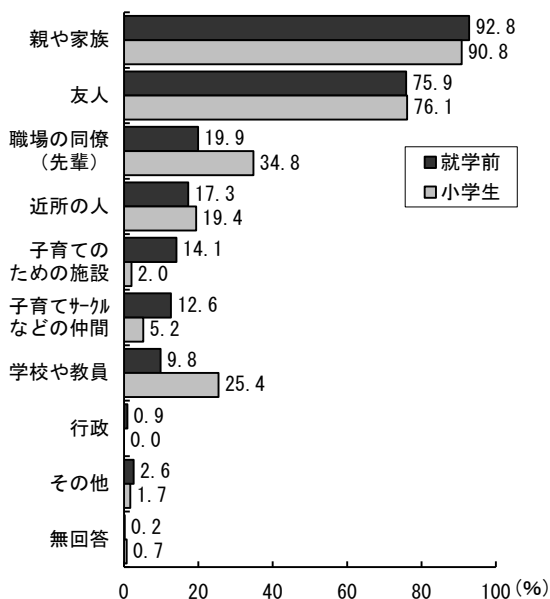
【就学前】



【小学生】



【相談相手】

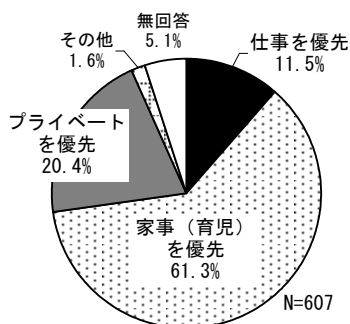


⑧仕事・家事・プライベートの優先度の希望と現実

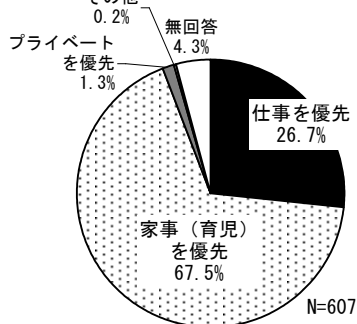
仕事や家事、プライベートの優先度の希望と現実を聞いたところ、現実では「仕事を優先」している割合が、就学前では26.7%、小学生で41.3%となっています。

【就学前】

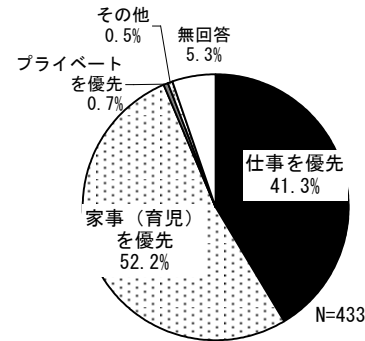
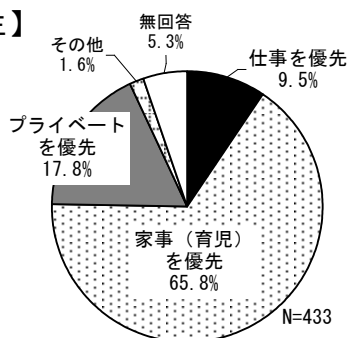
<希望>



<現実>



【小学生】



◎利用したことのある事業の評価

利用したことのある事業の評価について、回答を得点化したものの平均をみると、就学前では、「ブックスタート事業」4.61点、「保育園の一時保育」4.34点、「ファミリー・サポート・センター」4.22点などが高くなっています。

また、小学生でも「ブックスタート事業」4.09点、「保育園の園・園庭開放」4.04点などが高くなっています。

尚、他の事業と比べ、小学生では「教育相談」や「保健センターの健康・子ども何でも相談」の評価がやや低くなっています。

平均得点

	就学前	小学生
① マタニティセミナー	3.99	3.68
② 産後ケア事業	4.17	3.20
③ 新生児訪問	4.19	3.68
④ 保健センターでの健康診査、健康相談	3.93	3.58
⑤ もぐもぐ・かみかみ離乳食講座	4.07	3.64
⑥ 子育て支援センター	3.92	3.68
⑦ 児童センター	3.80	3.70
⑧ 保育園の園・園庭開放	4.11	4.04
⑨ 保健指導員会、地域公民館の子育て広場	4.03	3.40
⑩ 市立図書館「お話の会」	4.02	3.88
⑪ ブックスタート事業	4.61	4.09
⑫ どきどきわくわく子育てガイドブック	4.06	3.57
⑬ 町、保育園の子育てセミナー、子育て講座	3.92	3.50
⑭ 市ホームページ「すぎか子育てナビ」	3.65	3.17
⑮ 保健センターの健康・子どもなんでも相談	4.10	3.09
⑯ 家庭児童相談	4.00	3.18
⑰ 教育相談	4.00	2.95
⑱ ファミリー・サポート・センター	4.22	3.21
⑲ 保育園の一時保育	4.34	3.90

<得点> 良い:5点、ほぼ良い:4点、普通:3点、やや悪い:2点、悪い:1点、無回答:配点なし

(2) 自由意見

[地域における子育てについて]

①公園・遊び場の充実について

子供たちが、安全に遊べる公園の充実の要望が件数的にも多く挙げられています。安全な遊具の問題もありますが、子供たちがのびのび遊べる公園を、近くに整備・充実してほしいとの意見もありました。

- 公園の遊具の安全と充実を。(67人)。
- 自宅から歩いて行けるところに公園がほしい(48人)
- 公園を増やしてほしい(40人)
- 広くてのびのび遊べる場所(34人)
- 自然と共存した施設を(2人)
- 子供がボールを追いかけられるような広場を作ってほしい(1人)
- 以前のように近くの公園で、親子連れが集まり、意見交換、子供同士もふれあいがあったが、遊具がなくなり、集まらなくなった(1人)
- 遊具が次々と撤去され、鉄棒ひとつもない公園でどうやって遊ぶのか(1人)

②子育ての経済的負担の軽減について

保育料などの軽減してほしいとの意見が多く、医療費などの補助制度の充実してほしいとの意見も多くみられました。

- 保育料の安くしてほしい(52人)。
- 保育料の6階層をもっと細かく分けてほしい(2人)
- 保育料の三人目無料の制度は同時に三人入園の条件をなくし第三子は無料にしてほしい(4人)
- 子育て支援・保育サービスは働けば働くほど利用額も高い(3人)
- 福祉医療費受給年齢を上げてほしい。(中学生位まで)(48人)
- 子育て家庭に割引を(8人)
- 出産祝い金などの支給(5人)
- 子供の医療費の無料の期間延長(1人)
- 施設の利用料金は、子供は無料で大人のみ徴収して欲しい(1人)
- 子供の病院医療費代金の立替え方法を再考してほしい(11人)

③保育サービスの充実について

保育サービスについては、病児・病後時保育の充実の要望件数が多くみられた他、保育所の利用条件の緩和などの意見がみられました。

- 病児・病後児保育をしてもらいたい(43人)
- PTA等の会議の際、子どもを預かってもらえる所がほしい(4人)
- 保育園はフルタイム労働の両親が利用すべきなのに、利用時間外になってしまうのはおかしい。(3人)
- 24時間預かる保育所などがあると助かる(2人)
- 保育園の入園基準を緩和してほしい(13人)
- 所得によって利用料の差がありすぎる。(2人)
- 祖母が同居しているというだけで児童センターに受け入れてもらえず、1年生の子供だけで3時間ほど留守番している。(2人)
- 夫婦で入院・インフルエンザと重なり、子供達の面倒がみれない急な時に低料金で預けられる所があるといい(1人)
- 障害児保育対しては、両親の就労条件を緩和してほしい(1人)
- 一時保育を利用するのに毎回書類を書くのが面倒(1人)
- 理想は職場に保育所があること(4人)

④児童センター・児童クラブについて

児童センターの利用できる学年枠を広げてほしい、利用料金の設定を柔軟にしてほしいなどの意見が

みられました。また学校での放課後対策の対応も考えてほしいとの意見がみられました。当然のことながら親の就労に大きく影響している状況が改めてみられます。

(児童センターについて)

- 夏休み等は開始時間を早めてほしい (12人)
- 放課後の居場所を充実させてほしい。(8人)
- 各地域公民館をもっと活用できる様にして欲しい (7人)
- 児童センターだけでなく、夕方学校で子供を預かってほしい (1人)
- 利用料金を利用頻度で変えてほしい (夏休みのみが多い) (1人)
- 高学年児童は利用できない (中学生位も含)。(1人)

(児童クラブについて)

- 学年を6年生までにして欲しい (5人)
- 19時までしてほしい (3人)
- 利用頻度が違う場合にも同じ利用料はおかしい (2人)
- 土曜にも預かってほしい (4人)

(放課後の子供の居場所について)

- 小学校へ進学すると、留守家庭児童の環境は整っていない (3人)
- 小学校以降のサービスがあまりないように思う (2人)
- 学校の放課後時間を利用し異年齢交流しては (1人)
- 学校で放課後 18時まで預かってほしい。(1人)
- 学校でも児童クラブなどのように預かってほしい。(1人)
- 保育園より小学校の方が帰りが早く休みが多い。(1人)
- 小中で放課後活動できる場所や学べる環境の充実 (1人)

⑤子育てネットワーク・情報公開について

地域で子育てについてのネットワークはさらに充実していく必要があります。特に転入者などへの配慮や情報伝達の方法についてより充実してほしいとの声がみられます。情報の周知も様々な要望がみられています。いかに必要な情報を必要な方々に伝達するかが課題となっています。

(子育てネットワークについて)

- 地域で支援できるネットワークを充実していただきたい (18人)
- 転入者や初めての利用者に、馴染みややすくする配慮を (9人)
- 初めての子育て者に相談窓口等を連絡してほしい (2人)

(子育て支援情報の周知)

- 子育て支援を市民に周知し、利用に結びつけてほしい (10人)
- 須坂市の情報が家にもわかるようにしてほしい (4人)
- 保育園・幼稚園の料金・特徴を一覧にしてほしい。(3人)
- 仕事をしているので、土日などにセミナー等やってほしい (2人)
- 子育てサークルや集まりの情報が得にくい (2人)
- ファミサポに登録したが、機能しているのか疑問 (1人)
- 携帯で情報配信してほしい。学校や地域情報が欲しい (1人)

(子育て支援センターについて)

- 駐車場が狭い (9人)
- 土日実施してほしい (4人)
- 子育てセンターが遠い (2人)

⑥その他

- NPOが行っていたリソースデーなどを広めてはどうか (2人)
- 妊婦服、ベビー服、ベビー用品等のレンタルやフリーマーケットの開催をしてはどうか (2人)
- 異年齢で体験活動などワークショップを実施してはどうか (1人)

[健康の確保及び増進について]

①市の保健事業について

市の保健事業について、保健師・保育士の対応についての意見や実施事業の改善案がありました。職

員教育の重要性はもちろん、より利用し易い事業の運用も検討していく必要があります。特に、情報交換の場の充実は、即効性のある事項です。

(保健師・保育士について)

- 保健師や保育士などの指導・教育をもっとしっかりして (17人)
- 気軽に子育て相談できる窓口を充実してほしい (5人)
- 健診や相談等に対応する保健師は基礎的な応対を勉強して (1人)

(実施事業について)

- 保健センターでの健康診査を午後でなく午前にして欲しい (5人)
- 2才児まで、歯のフッ素をぬることを是非実施してほしい (1人)
- 仕事のため、平日昼間の講座等は全く参加できない。(1人)
- 子ども何でも相談は同じ曜日実施で行きたくても行けない (1人)
- 学校や保育園に看護師の医療行為ができる制度を (1人)
- アレルギー(食物)の子供への配慮が欠けているように思う (3人)
- 母乳外来のある須坂病院のような施設の充実をしてほしい (1人)
- 役所・子育て支援センター等で疎外感を感じる。明るく開放的な応対を (2人)
- 小さい子を連れて市役所へ行くのは結構大変、できるだけ手続は簡単にしてほしい (1人)

(育児の情報交換・交流について)

- 子育て仲間と出会える場を提供してほしい (10人)
- 妊婦セミナー等の妊婦同志が情報交換できる場を (3人)
- 子供のためにも母親が息抜きできる場所がもっとほしい (3人)
- 初めての出産の孤立化を防ぐため、保健センターでの講座やセミナーなどを開催し交流の場をつくってほしい (1人)
- 親の心のサポートをもっと考えて欲しい (1人)
- 予防接種の情報がほしかった。知らない不安 (1人)
- 外国の方は身近に友人も少ない。言葉の問題で悩む人もいる (1人)

[生活環境の整備について]

①生活環境の充実について

安心して暮らすことができる生活環境の整備について、様々な要望がみられています。まずは子ども達が通学通園で利用する歩道の整備、安全確保のための道路環境の整備は早急に対応していく必要があります。また子育てにやさしい街づくりの推進もすすめていく必要があります。

(歩道整備について)

- 歩道の整備や街灯を増やすなどして欲しい (38人)
- ベビーカーで安全に移動できるよう、歩道整備を。(9人)
- 須坂は道が(歩道)狭くて子供が自転車にのる時が心配。(2人)
- 横断歩道でない道を渡ろうとする子供を見かける。(1人)

(交通安全について)

- 通学路でのスピード制限をして交通安全に力を入れて (3人)
- スクールゾーン等通学帰宅時間の車の規制があると安心 (2人)

(公共交通手段の整備について)

- 病院等などへの外出時に交通の便が悪い (3人)
- バスの本数が少ない。交通手段が無い人の事も考えてほしい (1人)
- 中学校が遠く雪などの時送迎したくてもできない。ほほえみ号を朝夕だけでも利用したい (1人)

(公共施設の整備について)

- 公共施設など子供用トイレ・おむつ交換の場所を増やして (6人)
- スーパーなどに赤ちゃんから乗れるカートを。店舗に協力依頼してほしい (1人)
- 妊婦や小さい子連れでの外出は大変。トイレ・駐車場・ベビーカーが通れる空間やスロープ等の配慮をしてほしい。(1人)

(住環境について)

- 幼児がいる賃貸アパート利用世帯は家賃の軽減 (1人)
- 日野地区に市営住宅がほしい (1人)

[職業生活と家庭生活との両立について]

①安心して子育てできる就業環境について

子育てと就労の両立支援は、子を持つ親にとって、子を産み育てる意欲と密接な関係があります。就労のための支援を進めていくと同時に、企業の理解を進めることも大切です。子育てをしながら、就労希望のある方々の要望に応じていく必要があります。

(就労支援について)

- 子育て中の人々の就業の場がなかなかない (18人)
- 家計の為に子どもが学校に行っている間だけ働ける仕事を (3人)
- パソコン講座のような就労支援に力を入れてほしい (1人)

(企業への子育て支援指導)

- 企業側(社会の)の理解が不足している (14人)
- 母親は子供が病気の際は休める環境の方が重要。企業に子育て支援を進める施策を (10人)
- 父親は仕事も大事だが、子供が病気時や学校行事の時、職場を休み易くする事はできないか (7人)
- 女性は“仕事より子供”の時期がある。会社からは仕事優先の現実があった。それぞれの企業に育児支援の指導をしてほしい。仕事と育児の両立が辛い人が沢山いると思う (1人)
- 育児休業制度を利用できる人は良いが、臨時や派遣の人は制度の利用対象にならない。なんとかしてほしい (2人)

[子どもの安全の確保]

子ども達が安心して生活できるまちづくりを進めていくため、地域での見守り活動を進めるべきとの意見や、情報の共有化をすすめる必要性を求める意見が多くみられます。地域活動の活性化をすすめ、直ぐにでも実施できる活動を具現化し、より安全な街づくりを進めていく必要があります。

(安全の見回り)

- 地域で(警察の協力も得て)見回を行い、子供達が外で自由に遊べるような町づくりを進めてほしい (25人)
- 登下校時、信号のない県道で子供の横断の手伝いをしている方を見かける。各学校にもそのような活動を進めてほしい (2人)

(不審者情報)

- 不審者の情報も共有化してほしい(不審者の情報が広報須坂で放送するなど) (2人)
- 不審者が出たとの知らせの後、どうなったのかの情報がない (1人)

[教育環境について]

①教育環境について

子ども達の健やかに育てていくために、最も重要な環境の一つである教育環境について、より良い環境づくりを、教育の立場、親の立場、地域の立場の方々と、継続的に、話し合う場を設け、十分な議論をすすめていく必要があります。

- 図書館がもっと明るく開放的な雰囲気の中に (3人)
- 教師がしっかり子供達を叱れる環境を作るべき。(2人)
- 土曜日も以前のように学校があるよい (2人)
- 小学校・児童センターでも良い事・悪い事の区別の指導を (1人)
- ピアノの無料開放等、市民に楽しみと文化の心を育てほしい (1人)
